

# 宿泊税制度の見直し案について

---

# 宿泊税制度の見直し案について

## ■ 第3回有識者会議での委員意見

- (行政需要) : 今後5年間は年間80億円程度の行政需要が見込まれ、その財源を確保するための税制度を構築する必要がある。  
 (課税免除) : 万博終了後も、修学旅行生を対象に実施すべき。  
 (税率設定) : 免税点は現行の7,000円から5,000円に引き下げることが妥当。税率の引上げは他の自治体と同程度とすべき。  
 税率の引上げ案は2案程度に絞ったうえで、次回の第4回会議(8/22)で「第一次答申案」を提示すること。

⇒ 第一次答申案の作成に向けて、以下のとおり見直し案の比較検討を行う

	現行制度	<案1> 税率3区分	<案2> 税率4区分																																																
税率設定	<table border="1"> <thead> <tr> <th>宿泊料金</th> <th>税率</th> <th>税収</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7千円未満</td> <td>免税</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>7千円以上 1万5千円未満</td> <td>100円</td> <td>17.0億円</td> </tr> <tr> <td>1万5千円以上 2万円未満</td> <td>200円</td> <td>3.8億円</td> </tr> <tr> <td>2万円以上</td> <td>300円</td> <td>4.3億円</td> </tr> </tbody> </table>	宿泊料金	税率	税収	7千円未満	免税	—	7千円以上 1万5千円未満	100円	17.0億円	1万5千円以上 2万円未満	200円	3.8億円	2万円以上	300円	4.3億円	<table border="1"> <thead> <tr> <th>宿泊料金</th> <th>税率</th> <th>税収</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><u>5千円</u>未満</td> <td>免税</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td><u>5千円</u>以上 1万5千円未満</td> <td><u>200円</u></td> <td>65.0億円</td> </tr> <tr> <td>1万5千円以上 2万円未満</td> <td><u>400円</u></td> <td>7.6億円</td> </tr> <tr> <td>2万円以上</td> <td><u>500円</u></td> <td>7.2億円</td> </tr> </tbody> </table>	宿泊料金	税率	税収	<u>5千円</u> 未満	免税	—	<u>5千円</u> 以上 1万5千円未満	<u>200円</u>	65.0億円	1万5千円以上 2万円未満	<u>400円</u>	7.6億円	2万円以上	<u>500円</u>	7.2億円	<table border="1"> <thead> <tr> <th>宿泊料金</th> <th>税率</th> <th>税収</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><u>5千円</u>未満</td> <td>免税</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td><u>5千円</u>以上 1万5千円未満</td> <td><u>200円</u></td> <td>65.0億円</td> </tr> <tr> <td>1万5千円以上 2万円未満</td> <td><u>400円</u></td> <td>7.6億円</td> </tr> <tr> <td>2万円以上 <u>5万円未満</u></td> <td><u>500円</u></td> <td>6.9億円</td> </tr> <tr> <td><u>5万円以上</u></td> <td><u>1,000円</u></td> <td>0.5億円</td> </tr> </tbody> </table>	宿泊料金	税率	税収	<u>5千円</u> 未満	免税	—	<u>5千円</u> 以上 1万5千円未満	<u>200円</u>	65.0億円	1万5千円以上 2万円未満	<u>400円</u>	7.6億円	2万円以上 <u>5万円未満</u>	<u>500円</u>	6.9億円	<u>5万円以上</u>	<u>1,000円</u>	0.5億円
宿泊料金	税率	税収																																																	
7千円未満	免税	—																																																	
7千円以上 1万5千円未満	100円	17.0億円																																																	
1万5千円以上 2万円未満	200円	3.8億円																																																	
2万円以上	300円	4.3億円																																																	
宿泊料金	税率	税収																																																	
<u>5千円</u> 未満	免税	—																																																	
<u>5千円</u> 以上 1万5千円未満	<u>200円</u>	65.0億円																																																	
1万5千円以上 2万円未満	<u>400円</u>	7.6億円																																																	
2万円以上	<u>500円</u>	7.2億円																																																	
宿泊料金	税率	税収																																																	
<u>5千円</u> 未満	免税	—																																																	
<u>5千円</u> 以上 1万5千円未満	<u>200円</u>	65.0億円																																																	
1万5千円以上 2万円未満	<u>400円</u>	7.6億円																																																	
2万円以上 <u>5万円未満</u>	<u>500円</u>	6.9億円																																																	
<u>5万円以上</u>	<u>1,000円</u>	0.5億円																																																	
税収 (見込)	約25.1億円	約79.8億円	約80.0億円																																																
メリット	(現行の税率設定の考え方) ● 特別徴収義務者の事務負担や納税者に対する分かりやすさという点から、税率は定額とした	✓ 現行の宿泊料金の区分を維持したうえで、 ①免税点引下げ、②現行税率の引上げとなり、改正内容がわかりやすい	✓ 高額な宿泊料金に対応する税率を設定し、負担能力に見合った制度となる																																																
デメリット	● 宿泊料金の1%程度の額を目安に最低税率を設定するとともに、宿泊料金に応じ担税力を勘案し累進的に税率が上がるよう段階的な税率を設定	✓ 高額な宿泊料金に対応する税率を設定した場合に比べ、僅かに税収が少ない	✓ 税率区分が現行の3区分から4区分に増加し、納税者、特別徴収義務者にとって複雑な制度となる																																																